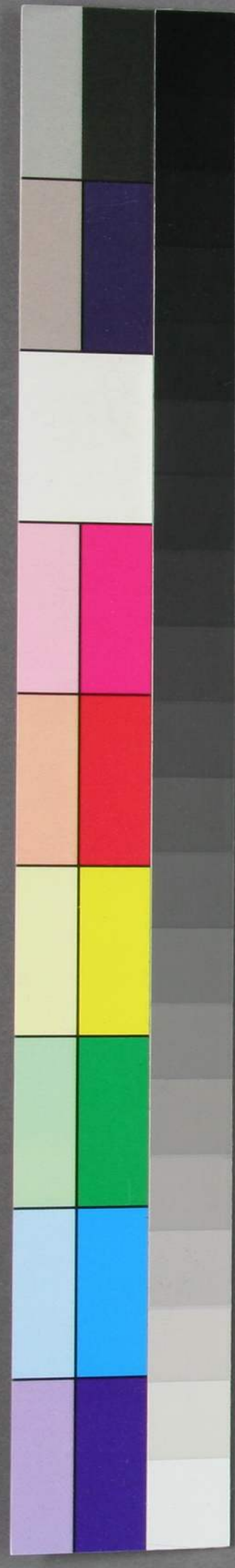


五十組之記

信

一首十躰香 山海香
源盛習畧 三教香
詩歌合香 四香音信香
松花香 慶賀香
千年香 萬歲香

多
1938
35



門 7 多
號 1338
卷 35



五十組之内 信

- 一首十躰香
- 源氏三習香
- 詩歌合香
- 松花香
- 千年香
- 山海香
- 三教香
- 四季音信香
- 慶賀香
- 萬歲香

十平香
味野香
麝香

粉草香
四木香
三味香

一香十換香
山威香

一首十躰香

香三種

右三種と五包して内人丸の香を著

付家多し

あめくさ 明石の浦の 同香

銅まくら 烏うらり 同香

みねしおよ 色

右のくくく試き年一又歌の五文字の赤
と青紙の色七文字の色と家紙の色香木
本香と文令青紙家紙と家紙と生虫

と五色の百十軒の和々々以合名家紙
哥と書付書令一記録の書出考もた
歌の百つをすくつを抄介書々書色
よ何いもれい書々いあま全下人丸
書かあると色けき不南りしと付家

貞重格のウチと南りいあま

たまの右五種と一の香二種とちめくそ
 の浦の二種と二の香二種と銅きりよ高丸
 の二種と銅きりよ高丸の二種と
 銅きりよ高丸の二種と銅きりよ高丸
 の二種と銅きりよ高丸の二種と
 銅きりよ高丸の二種と銅きりよ高丸
 の二種と銅きりよ高丸の二種と

不知終る考記録左の

一首十種香之記
銅きりに

名
銅きりよ高丸
 銅きりよ高丸の二

名
銅きりよ高丸
 銅きりよ高丸の一人丸

月日

出香 名乗

記保之存准

一首十餘年

同香の事

山海香

香三種

浦浪

松風

嵐

山海香

香三種

浦浪ノ言ハ俵ノ包ニ試ス

松風ノ右ノ同ク

客ノ罍ノ俵ニ試ス

右試考終りて先浦浪二包より各二包と成
四包お交り終りてすおひりて又去凡二包
各二包と入四包す終りて記域書附出
始の四包不残す終りて各の下の句と書
後の四行とす終りて各の句と書す後

す遠より付の一角書終りて又上四包不残
浦住書下四行不残終りて山住書全
あは成道下書終りて各の句と書す
考終り

浪の音終りて各の句と書す

くわいろうのすちのうまのま

山海香之記

ウ浪浪ウウ風

名 ウ浪ウ浪ウウ風 山住 六

名 ウ浪浪ウウ風 成道 全

月日 出香 名乗

記録先下順年

源氏三羽香

香四種

揚名之めりて 之は徳用を成

とのふとの袋にて 右同好

子のこ餅にて

右同好

山位六

各一入 一色徳蔵

右試読りて出香四色打交一色除き残り
三色と煙を試合せ名乗候書付出
各一人中四色二人より二点下掛り
為記の面を残り下考左の事

源氏三習香之記

揚名系ウ 揚名系

名 揚名系 揚名系ウ 一

名 揚名系 揚名系 叶

年月日 出香 名乗

記尿之水一頓

法華經卷

三教香

香四種

儒

佛

道

右同

春より 一色伝は成

右試紙より出香十包お支燈香を試み各札
お灸し又記紙をくすお灸し始銘は身を儒
佛道と定む採題の如くして一軍と云
ふ又一色のみをくすお灸して一と儒を佛

次で道と定む儒佛道とくく何れんも人教
ありて返まをり古身を儒佛と定む本
来の名儒の人の記録も記紙も敵しと書
る外一二三ハ儒佛道とく書る一人全の人
ハ下の下ハ儒と聖と書佛ハ釋と書道ハ

先と書外に教を言ふ事又佛の人の名を
耳と云道の人苦と書事一在法儒人
の儒の考ゆれ二点より外一在佛道
と云准を云一の教を儒佛と云我々
のちるいの上の教入るに記の表より

終つて左の通り

三教考之記

儒仙仏道儒道道仙儒

名 仙仙儒道儒道道仙儒 六

名 儒仙仏道儒道道仙 釋全

月日 出香 群名 乘

記録之好准才年

三香木

[Faint bleed-through text from the reverse side]

詩歌合香

香八種

各二包 苑 志 十六包内 一包 苑 試

右出香八種 一と 杜子美 二と 李太白 三と

王昌齡 四と 孟浩然 五と 右四種と 詩人の

香丸五と柿本人丸と一と山迄赤介と
七と大友里主と一八と猿丸大夫と一右
四移と歌人の香丸と右之取や出香八包と
二包と結合令や四結と一結合左の
杜子夏 唐人丸 李子大白 赤人

玉昌鈴 黒主 孟浩然 猿丸

右の香丸結合五右試おろしと出香四結いと結
あらしお交二包一結と一結合二包一紙
所々本香の色と一の折居に入て本中五
一本香と有ハ出香の半と一色紙とあらし

一重一包紙紙一重
 斗と折君と二重三紙もた一紙つ
 子鳥と用四紙もた一重一紙清もた
 扱香中紙と一重兼紙一一番二番三番
 四番と書く一書く一重左と一重

- 一番 杜子美 人丸
- 二番 孟浩然 猿丸
- 三番 李太白 赤人
- 四番 王昌齡 里主

如公認名乗紙の始執事と出た作法也
 枚余二ツ折して重硯と兼せ出まへた
 一重のまじり記録紙と一帖と二ツ折して
 出まへた一重のまじり記録紙と一帖と

二ツ折して又四ツ折する又三ツも折す

あつて先四ツ折通用する付合は

多しあつては折所の歌名の詠多成作法

あつて本包香の後の名多し入る

詩多し唱へ柱出する可し詩を先く

後加へて次々名乗成りしき事なるは

と書詩の起句と結句と一行書る哥

存あり詩の起句と書はるの哥の上の句

より不南の不書と傷と何れ並り三級

四級南のよの上四行下四行八行のつ

書翰一書の次は記録の書方肝要を
多し之記の如く終つて左の如く

杜子美 人丸

李太白

赤人

王昌齡

里王

孟浩然

猿丸

詩歌合香記

李太白 孟浩然

杜子美 王昌齡

赤人 猿丸

人丸 里王

名

不知何處吊湘君
何れ春日山是越中
香まき山吹花

可忍醒時雨少稀
山吹花
梅敷夫婿免封侯
なまき

雨全林

名

洞裏西望玉楚江分
洞裏西望玉楚江分

洞中少婦不知愁
洞中少婦不知愁

木四

月日

出香 名乘

記録先に煩き事一録し名乗紙書換の年ハ
枚取四ツ折りしもの折目を間ぬ各名乗紙

可書函三間よりくらくを間目より四紙のすてき
あり書紙の記録の如くはたす左のそ

杜子美

楸樹馨香倚釣磯 折新花菜未應飛
不知醉裏風吹盡 可忍醒時雨打稀

柿本人丸

我名の池の多浪 嘆きよ
山有くもんりく車はん

木子大白

洞庭西望楚江分 水盡南天不見雲
日落長沙秋色遠 不知何處吊湘君

猿丸大夫

春の白くも色もあけく
孝子くもく山次く

哥者 中院内府通村公春議

詩者 夕顔菴林道春史撰

詩歌右のこゝに記されし如左のこゝに候

今一頁書
〜之〜之
考記へ原時一交
〜用半見
〜之故
可憐

才一 杜子美 人丸	才二 王昌齡 里王	才三 孟浩然 猿丸	才四 李太白 赤人
-----------------	-----------------	-----------------	-----------------

名集

右に通抄する人子銘の
名集と書明しし之を生

和歌詠草之始一間ノ名採得者よき

工夫あり

大 一 八 天	大 二 王 信 通	大 三 五 部 通	大 四 李 杏
大 一 八 天	大 二 王 信 通	大 三 五 部 通	大 四 李 杏
大 一 八 天	大 二 王 信 通	大 三 五 部 通	大 四 李 杏

山本寺音信香

四色体言一色試

左月

右月

四季子音信香

香四種

春 夏 秋 冬 四色 徳内 一包 試

夏 秋 冬 右同

秋 冬

右同

冬

右回り

右試燈りく出香十二色お灸煙出ま申試よ
あをせれお申し落るるを左の灸目を
書付余の人の中の下るる信と書其申し
何ぞく書名目左の

春のき信始の香を

鳶と書

二番目出るるを

雀と書

三番目出るるを

雉子と書

夏のを信始の香を

時と書

二番目出るるを

水鶏と書

三番目よ出らる

蝉と書

秋の香信始の香と

萩風と書

二番目よ出らる

厚と書

三番目よ出らる

鹿と書

冬のも信始の香と

時と書

二番目よ出らる

千鳥と書

三番目よ出らる

嵐と書

のひまろく 狂記の面々 能くう香のたのり

四季香信香之記

夏春夏秋秋冬 春冬秋秋冬 夏

名

時多 鷓水 萩一 時一 兩一 子千 鹿千 嵐千 蟬千

音信

名

時 鳥一 鷓水 萩一 時一 兩一 子千 鹿千 嵐千 蟬千

六節

月日 出香 名 衆

記録 是子 順才 多

鹿

松花香

香

香

香

香

松花香

香四種

一、
二、
三、
徳成

二、
右同

三、
右同

音候

六節

出香 右采

各々

二色徳内一包試

右試法より出香十包を交互に試す一箱試す
年々試すに正札を打し記録に松花と書外
一二三より書南より点検し十種之内始五種を
多くやると歌の上句斗し書法五種より多くやると

哥の下の句と書魚一振分るれ歌を金

一頁書す

君のよきおぼろのたぬの也

十のよきおぼろのたぬの也

記録の両方と試すの考たの

松花香之記

三二ウ一二三一二三

札 一二融三二二三二一 君のゆき雪の松の心ゆき七

札 一二融三二二三二一 思ひぬき雪の松の心ゆき全

月日 出香 名乗

江禄之志らんま

巻一

右目録

蓬萊山

一巻終

右試紙一巻 玄竹鶴巻二巻 八巻 折文四巻
後 俣山 残巻 蓬萊山の巻 一巻 一巻
五巻 一巻 試合 巻 名乗 試

書附出 記録 一巻 南 一巻 一巻 蓬萊山の

二巻 一巻 又 松林の巻 一巻 出 巻 一巻 記の巻 一

詩と書 巻 一巻 鶴巻 一巻 一巻 一巻 一巻 一巻 一巻

左の巻 一巻 一巻 一巻 一巻 一巻 一巻 一巻 一巻

嘉辰今月 歡無極 万歳千種 樂未央

君が代をよせよと云ふは御名なり

いふは御名なりと云ふは御名なり

又何事か美分り出るとは詩なりと云ふ

書多し 当記の表に於て是なり又全の全

賀樂し書多し 其外に上程なり書多し

のこり

慶賀具香之記

松竹松鶴 蓬萊山

名 松竹鶴松 蓬萊山

三

名 松竹松鶴 蓬萊山

賀樂

嘉辰令月歡極萬歲千秋樂未央

月日

出香 名樂

記錄是午頌古年

千年香

香四種

松

四包 港内一包 試

竹

右同り

鶴

右同り

千年山より 右回り

右 試 終 一 二 色 一 三 色 一 四 色 一 五 色 一

六 色 一 七 色 一 八 色 一 九 色 一

十 色 一 十一 色 一 十二 色 一

松三種 竹三種 鶴三種 千年山三種

右 四 色 一 五 色 一 六 色 一 七 色 一 八 色 一 九 色 一

十 色 一 十一 色 一 十二 色 一 十三 色 一 十四 色 一

十五 色 一 十六 色 一 十七 色 一 十八 色 一 十九 色 一

二十 色 一 二十一 色 一 二十二 色 一 二十三 色 一 二十四 色 一

二十五 色 一 二十六 色 一 二十七 色 一 二十八 色 一 二十九 色 一

三十年山の香三種 香の付 記 録の本 香の下り

一頁記の事一と書付之る記の面を結

可考され

和の

ふり
の事
の事
の事

年

子代
の事
の事

鶴の

思ふ代
の事
の事

十年山の

生
の事
の事

江の東に書く

今年よりちせの山へ土へん
月より代々とていふるなる所

十年香之記

鶴竹堂鶴竹山山松山
去所より鶴竹山より十年集
この月より代々の多し

札

鶴竹堂鶴竹山山松山

全

札

鶴竹堂鶴竹山山松山
この月より代々の多し
鶴竹堂鶴竹山山松山

五

月日

出香 名乗

江原 具々 順々

萬歲香

香四種

一、
四色、俵内一色、紙

二、
右同り

三、
右同り

各々

百餘年

右試紙より出た十包を交じりて試みありて
此中一紙は本香の一と名し書二と名
ふ代と書三と名し細石と書各々一紙と書
後々の紙の一二三各紙文字より書あり

全の人の万葉と書あり其外は五枚あり
書あり三十一枚あり

君代と千世と一紙代と細石あり

山教とありと一紙ありとあり

記録左の通り

百歲香之記

氏 義

札 一 二 二 一 一 三 三 一 一 二 三 三 萬歲

札 一 二 一 一 一 三 三 二 二 三 一 七 七

月日 出香 名集

記録應准之

